

5章

外傷IVRの 実践的な戦略と戦術

スピードと機能温存とのせめぎ合いの先で、重症な患者をより低侵襲に救うために、外傷IVRに携わる上でどのように考え、取り組んでいけばよいか、できるだけ実践的に解説しています。ポイントは時間管理、循環と凝固を踏まえた方針決定です。多部位損傷の場合の優先順位、塞栓方法の判断や手技を行う上でのtips・ピットフォールのほか、ステントグラフト治療やREBOA(REBOA下のCT撮影含む)についても取り扱います。